

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

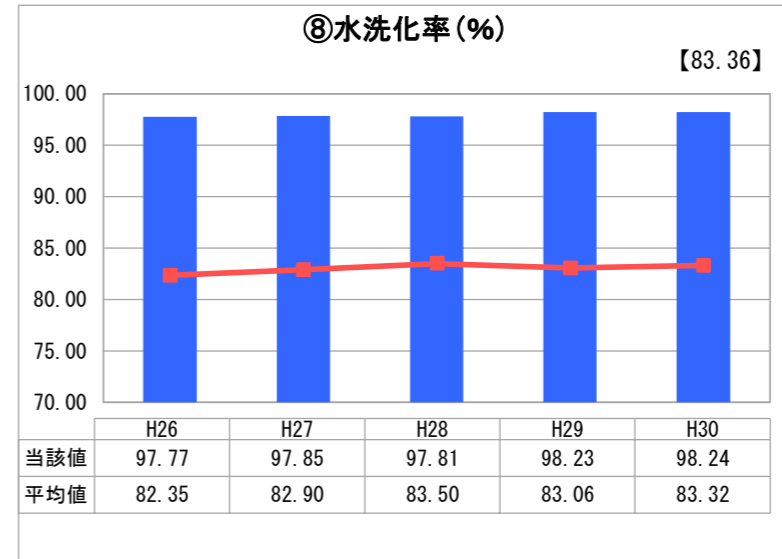
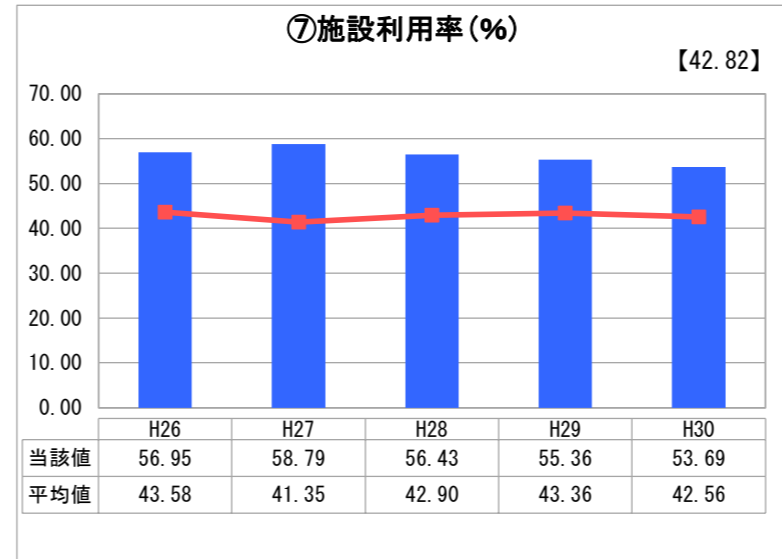
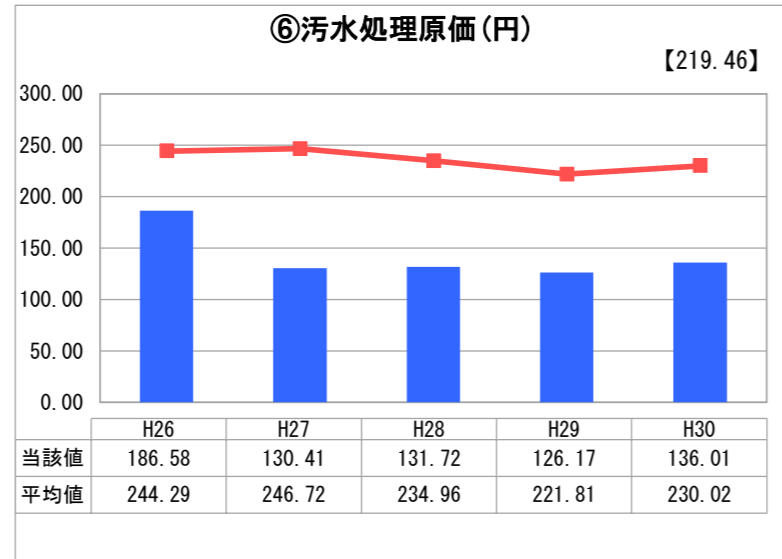
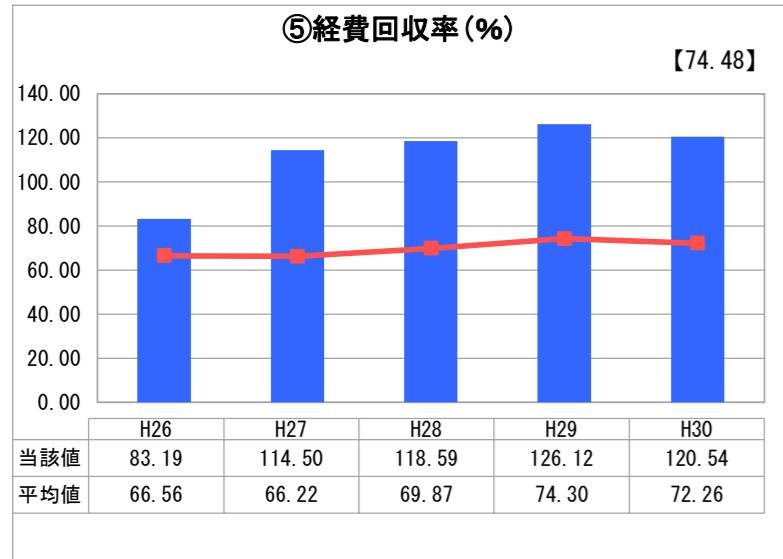
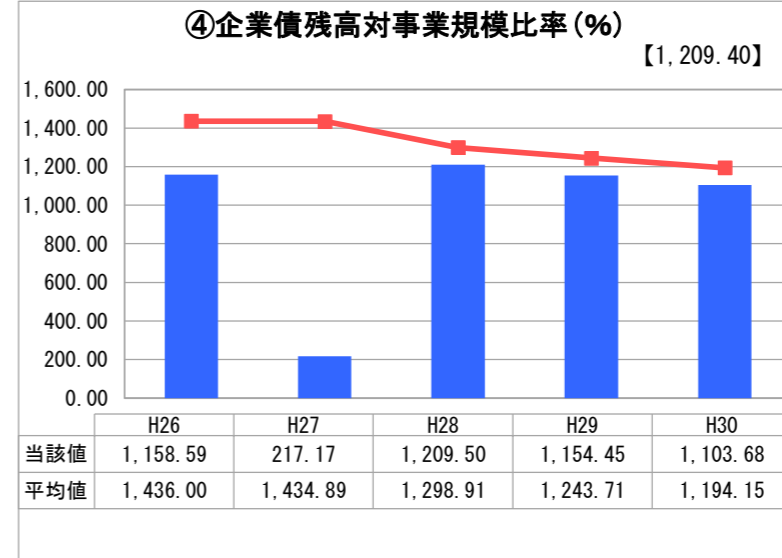
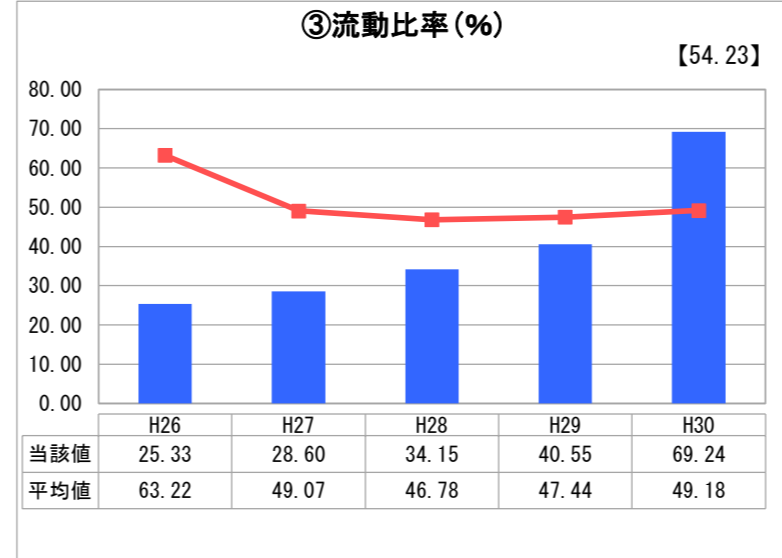
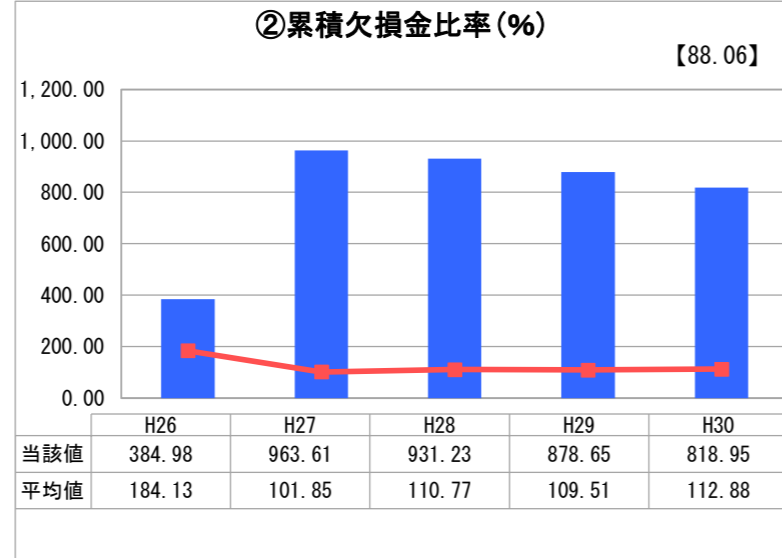
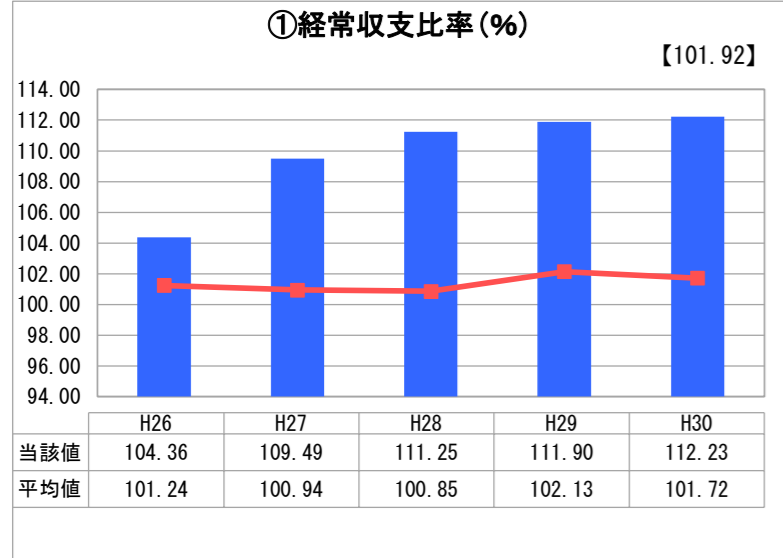
兵庫県 神河町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)
-	39.51	54.57	100.00	4,485

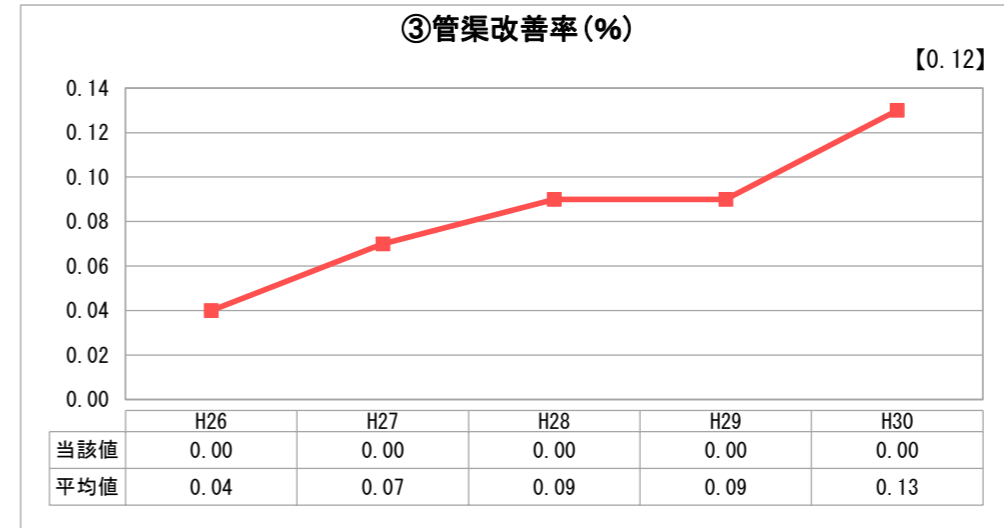
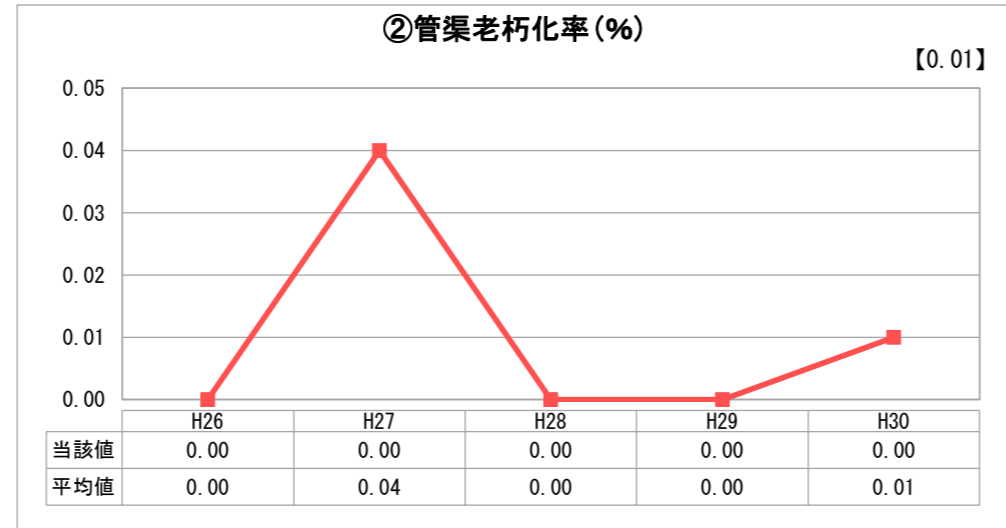
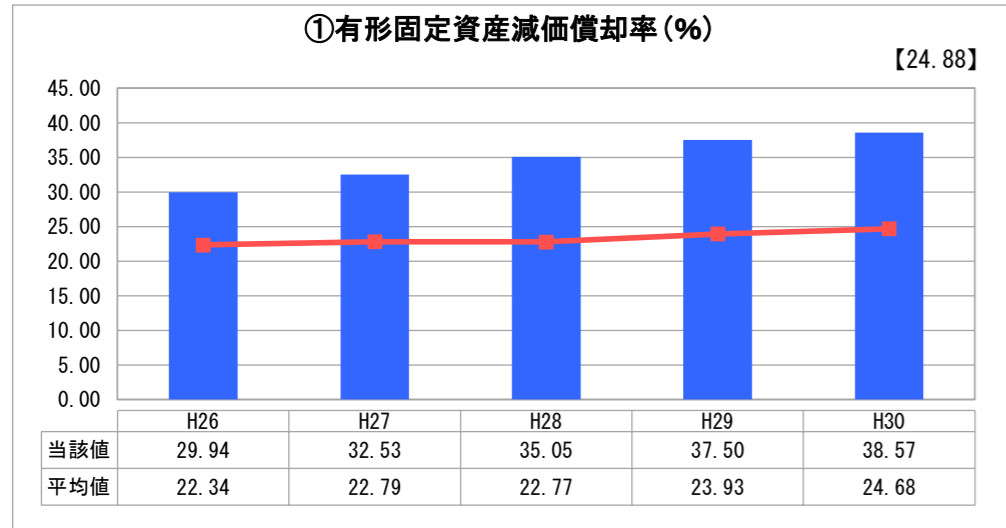
人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
11,473	202.23	56.73
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
6,233	4.49	1,388.20

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【】 平成30年度全国平均	

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

町営住宅の建築など地域創生の取り組みにより、世帯数が増えたことで下水道使用料は若干増加したものの、一方で新規加入金免除による収入減もあり、経常収支比率は100%を超えてはいるが、一般会計からの繰入金に依存した運営になっている。累積欠損金比率は、27年度から急に増えたようになっているが、26年度は一般会計からの繰入金の一部を営業収益に計上したため少なかったようになっている。今なお多額の欠損金が残っており、早期解消に向けて経営健全化に努めていく。

### 2. 老朽化の状況について

管渠では、管路は特に問題はないが、マンホールポンプ、中継ポンプの機械装置修繕が多くなっている。処理場では、3ヶ所ある処理場のうち2ヶ所で長寿命化工事に着手しており、そのうち1ヶ所については今年度完了している。今後残り1ヶ所の処理場についても着手し、令和2年度にすべての工事完了を予定している。

### 全体総括

当町の下水道事業は、合併浄化槽エリアを含めて、全町で生活排水処理施設が整備されており、集合処理区での生活排水処理率は98.7%と高い数字で、住民の皆様に快適な生活環境を提供している。当町の下水道使用料は従量制でなく人頭制を採用しており、水道料金とともに県内でも高額なので値上げは難しい状況にあるが、令和2年度に料金改定をして従量制へ移行するとともに、消費税を内税から外税にする。現在、特環公共下水施設の長寿命化工事を実施中であるが、今後農集3ヶ所、コミプラ2ヶ所を特環公共下水施設への統合する工事についても着手していく。下水道事業を将来にわたり継続するためには、経営の健全化・安定化が必要であり、経営戦略に基づき健全な運営に向けてコスト意識の高揚、経費の削減、未収金の収納に努めていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。